

## EUSI メールマガジン Vol. 095

### 「イタリア地方選挙における5つ星運動の躍進と「反EU世論」の政治的意味」(伊藤武)

EUSI (EU Studies Institute in Tokyo)は、一橋大学・慶應義塾大学・津田塾大学の3校のコンソーシアムによるEUに関する教育・研究・広報を行う拠点です(詳しくは以下をご覧ください)  
[http://eusi.jp/content\\_jp/aboutus/about\\_eusi/](http://eusi.jp/content_jp/aboutus/about_eusi/)

#### 【EUSI Commentary Vol. 077】

#### 「イタリア地方選挙における5つ星運動の躍進と「反EU世論」の政治的意味」

伊藤武 (専修大学法学部教授)

イギリスの国民投票でEU離脱が選択されたニュースの衝撃が世界を揺り動かしている中であるが、難民政策の失敗などを理由にEU批判を掲げる政治勢力が伸長しているのは、他の加盟国にも共通する潮流である。

イタリアでは、去る日曜日(2016年6月19日)に地方選挙(基礎自治体コムーネ)の決選投票が行われた。特に注目を浴びたのは、首都ローマ、北部大都市のトリノで、EU批判を掲げる新興政党5つ星運動出身で30代の女性候補者が市長に当選したことであった。

直後に予定されていたイギリスの国民投票との絡みで、5つ星運動の躍進は、ヨーロッパで相次ぐ、移民・難民問題の悪化とそれに対応できないEU批判勢力の勝利の延長と受け止められている。

確かに、5つ星運動は、反移民やEU批判を追い風に、2009年の結党以来急速に拡大し、2013年総選挙では下院第1党に浮上した。今回の地方選の躍進は、EU・トルコとの合意成立以来、難民流入の拠点が再び地中海ルートを通じてイタリアに回帰し、昨年とは桁違いの難民が押し寄せていることに影響を受けているともいえよう。

同時に、政治経済的状況も党の成り立ちも相違する諸政党を、反EUで一括りにしてしまうことも問題がある。反EUを掲げる政党の党派は、急進左翼、伝統的左翼、保守政党、急進右翼まで幅広く広がっている。さらに、特定の党派を超えて支持を集めている政党もある。

そこで、本稿では、今回のイタリア地方選挙に現れた5つ星運動の「成功」の背景と要因を考察し、ヨーロッパにおける反EUの政治勢力に関する知見を提供することを目指す。

以下では、まず、地方選の政治的背景を探り、ついで5つ星運動の性質を考える。同党の躍進は、EUをめぐる各国政治の変化といかなる関係を有するだろうか、イタリアやヨーロッパの民主主義にどのような「教訓」を与えるだろうか。

...

(続きはこちら↓)

<http://www.hit-u.ac.jp/kenkyu/eusi/eusicommentary/vol77.pdf>

#### 【EUSI イベントご案内】

1. 駐日EU代表部より「EUフィルムデイズ2016」のご案内が届いています

EU各国の話題作を上映する映画祭「EUフィルムデイズ」が今年も開催されます。今年で第14回目を迎えた本映画祭には、過去最多の26カ国が参加し、日本初公開12作品や主要な国際映画祭の受賞・ノミネート作品を含む計31プログラムもの個性豊かな作品が、大変手頃な料金で鑑賞できます。

会期中にはゲストを招いてのトークイベントや講演も予定されています。ぜひ足を運んでみませんか。

#### 東京会場

日時: 2016年6月18日(土)-7月10日(日)

場所: 東京国立近代美術館フィルムセンター

一般: 520円、高校・大学・シニア: 310円、小中学生: 100円、障がい者: 無料

#### 京都会場

日時: 2016年6月25日(土)-7月15日(金)

場所: 京都府京都文化博物館

一般: 500円、大学生: 400円、高校生以下: 無料

EUフィルムデイズ 2016 公式 HP:

<http://eufilmdays.jp/>

## 2. 獨協大学の作内由子先生より、以下の公開講演会のご案内が届いています

科学研究費助成事業・基盤研究(B)

「ヨーロッパ保守政治の構造変容: 保守主義・キリスト教民主主義・新右翼」

公開講演会

日時: 2016年7月19日(火) 18:00-20:00

場所: 東京大学山上会館 002 会議室

報告: Koen Vossen 氏 (ナイメヘン大学)

「オランダとヨーロッパの21世紀のポピュリズム」(英語)

Koen Vossen 氏は2007年に戦間期オランダにおける小政党の研究でアムステルダム大学において PhD を取得。現在はナイメヘン大学の政治学の講師で、現代オランダのポピュリスト政党を主な研究テーマとされています。

英和対訳要旨つきで、通訳はありません。

申し込みは不要ですが、人数把握のために、参加をご希望の方は、作内由子 (sakuuchiy@dokkyo.ac.jp) あてにご連絡をいただければ幸いです。

## 【日・EU フレンドシップウィーク】

「日・EU フレンドシップウィーク」は、文化、学術、スポーツなどの様々な交流イベントを通して、EU をよりよく知ることを目的としたプログラムです

### 1. パネル・図書展示「今、EU へ発信する NIPPON」

日時: 2016年7月1日(金)-8月5日(金)(予定)

場所: 一橋大学附属図書館 雑誌棟連絡通路

主催: 一橋大学 EU 情報センター

2013年に「和食－日本人の伝統的な食文化」がユネスコ無形文化遺産に登録されるなど、海外において日本文化が注目されています。このようなトレンドを踏まえ、和食やサブカルチャー、ファッション、音楽、スポーツ、武士や侍

など、ヨーロッパに対して様々に発信されている日本文化について展示します

**【EUSI スカラーシップ・インターンシップ (一橋・津田塾大学院生等対象)】**

EUSI は、EU に関わる研究の遂行を目的に欧州へ渡航する大学院生等を対象に奨学金を支給します。以下の募集要項に従い、奮って応募してください。

対象者: 一橋・津田塾の各大学院等(課程修了者含む)で EU 研究を行う者  
(ただし外国人留学生は対象外)

研修先機関:

- スカラーシップ: EU 加盟国内の大学・教育研究機関・EU 諸機関・補助機関等
- インターンシップ: EU 諸機関・補助機関優先、その他 EU 関連 NGO、企業も可

奨学金: 1 人につき上限 4000 ユーロ (渡航費と日当)。但し各大学の定めによる

派遣期間: 2016 年 8 月 1 日-2017 年 3 月 31 日の間で研究に必要な期間

応募書類: 申請書、研究履歴、研究計画、研究日程表、推薦状、支出計画書

募集期間: 2016 年 6 月 20 日(月)-7 月 8 日(金)

選考機関: 2016 年 7 月 11 日(月)-7 月 15 日(金)。面接の日時は事前に本人に通知

選考結果: 2016 年 7 月 19 日(火)発表

<http://eusi.jp/outreach/eusi-scholarship2016/>

EUSI スカラーシップについてはこちら

<http://eusi.jp/education/scholarship/backnumber/>

EUSI インターンシップについてはこちら

<http://eusi.jp/education/internship/backnumber/>

**【EUSI 所属研究者による記事・執筆情報紹介】**

細谷雄一 (EUSI 執行委員、慶應義塾大学法学部教授)

「イギリスの EU 離脱問題と国民投票」

『世界経済評論』第 60 巻第 4 号(2016 年 7 月・8 月)

<http://www.world-economic-review.jp/>

網谷龍介 (EUSI 執行委員、津田塾大学学芸学部教授)

「国際政治史」というプロジェクト 高橋進『国際政治史の理論』の射程」

『思想』第 1107 号(2016 年 7 月号、2016 年 6 月 24 日刊行) 131-140 頁

<http://www.iwanami.co.jp/shiso/1107/shiso.html>

小串聡彦 (EUSI 研究員)

『ドイツの子ども・若者参画のいま ドイツスタディーツアー報告書』

(小林庸平・西野偉彦・NPO 法人 Rights との共著)

(デザインエッグ、2016 年 6 月 27 日刊行)

<https://www.amazon.co.jp/dp/4865436553/>

小串聡彦 (EUSI 研究員)

「EU 離脱派のプロパガンダ映画」(2016 年 6 月 15 日)

「EU 残留派内で亀裂発生！移民制限に舵を切る労働党」(2016 年 6 月 15 日)

「英国離脱は本当に避けられないのか？」(2016 年 6 月 18 日)

「英国の EU 離脱・残留後のシナリオ」(2016 年 6 月 20 日)

「大雨が降れば EU 離脱に傾く？」(2016 年 6 月 23 日)

<https://toshihiko-ogushi.com/>

### 【EUに関する新刊紹介】

中村雅治『国民国家フランスの変容 ヨーロッパ化の中の国民意識と共和主義』  
(上智大学出版、2016年5月30日刊行)

[http://shop.gyosei.jp/index.php?main\\_page=product\\_info&products\\_id=9100](http://shop.gyosei.jp/index.php?main_page=product_info&products_id=9100)

本書の著者である中村雅治先生より、本書のご紹介を頂きました。

---

本書は、しばしば国民国家の典型とされるフランスの、今日における変容の実態と、それを引き起こしている国内社会的要因とヨーロッパ的要因とを明らかにすることを目的としている。

国民国家は図式的に言えば「主権国家」と「同質的国民共同体」からなるとされる。主権国家としてのフランスは絶対王政期以来、強力な国家体制を発展させ、今日においても高度な中央集権国家を特徴としている。

同質的国民共同体の理念は、フランス大革命の精神である自由・平等・博愛の標語に集約されるが、国民共同体の同質性に着目すれば「共和主義」の理念こそ重要であろう。共和主義は政治体制としての共和制、主権者としての国民、国家と社会の関係においてはライシテ(政教分離)原則などを主張する。

今日のフランスではこうした伝統的国民国家モデルからの逸脱が目立ってきている。それを引き起こしたのもとして、3つの要因を指摘できるであろう。

第1はヨーロッパ統合の結果、主権のヨーロッパへの委譲が進んだこと。

第2は様々な社会的平等や相違への権利を求める運動の結果、伝統的な個人間の平等を柱とする共和主義の理念が問い直されるようになってきたこと。

第3はグローバル化の影響もあって、国際的人の移動ならびに移民人口が増大し、社会集団間の差異化が引き起こされたこと。

本書の分析においては、ヨーロッパとフランスという2つのレベルにおける「社会統合」の視点が導入されている。

ヨーロッパ・レベルにおいては政治共同体(EU)のさらなる発展のためには、機能主義的な共通政策の発展にとどまらず、その基盤をなす「ヨーロッパ社会」(価値の共同体)の形成、ヨーロッパ・アイデンティティの育成が問題とされる。フランスにおいては、国民共同体の伝統的な同質性の回復が強調され、ヨーロッパ懐疑主義者の台頭を見るに至っている。

注目されることは、ヨーロッパ化の進行により、両レベルの統合の試みには接点が生まれてきていることである。

EUが社会統合を掲げて価値の共同体をめざし、ヨーロッパにおいて人権レジームが形成されつつある今日、移民・難民政策はEUの政策となり、また人権に基礎を置くヨーロッパ市民権は構成国を拘束するようになっている。

本書はフランス研究とEU研究とを統合しようとするささやかな試みである。多くの、特に若い世代の方々がフランスやヨーロッパについて考えを深めるきっかけとなることを願っている。

中村雅治 (上智大学名誉教授)



## 【EUに関するニュース】

- 2016年6月1日 欧州委員会、欧州戦略投資基金(EFSI)の実績を評価、2018年以降の延長など将来像を提案
- 2016年6月1日 モゲリーニ上級代表及び欧州委員会、EU・ミャンマー関係発展のための改革支援戦略発表
- 2016年6月1日 欧州委員会、ポーランドの法の支配に対する意見採択。同国の憲法裁判所改定など問題視
- 2016年6月1日 モゲリーニ上級代表、スロヴァキア訪問。同国初のEU議長国(7-12月)準備状況に関し協議
- 2016年6月1-2日 欧州委員会、COP21で発足のミッション・イノベーション参加。クリーンエネ研究参画
- 2016年6月2日 ECB理事会、主要政策金利据置き、量的緩和に基づき8日に社債購入開始、低インフレ懸念
- 2016年6月2日 モゲリーニ上級代表、ポーランド訪問。EU新世界戦略及び来月予定のNATO首脳会合を協議
- 2016年6月2日 欧州委員会、単一市場戦略に基づき、シェアリングエコノミーの発展に向けた指針発表
- 2016年6月2日 EU及び米国、テロや重大犯罪の法執行協力における個人情報保護に関して包括合意に署名
- 2016年6月3日 中東和平プロセス閣僚会議、パリで開催。モゲリーニ上級代表、和平へのEUの役割強調
- 2016年6月3日 ギリシャ・クレタ島沖で難民船沈没、10名死亡。行方不明者320人も溺死の可能性
- 2016年6月3日 Eurostat、4月小売売上高(季節調整済)はユーロ圏19カ国で前月比同、EU28カ国同+0.5%
- 2016年6月5日 ルドリアン仏国防相、シャングリラ対話で南シナ海にEU海軍艦艇派遣をEU各国に提案意向
- 2016年6月5日 ローマ市長選挙、反EU政党「5つ星運動」ラッジ候補が37.4%得票で首位。19日決選投票へ
- 2016年6月6日 モゲリーニ上級代表、国連安保理で地域情勢・難民・テロ等のEU・国連協力に関する演説
- 2016年6月6日 EU理事会、マリでの治安支援文民ミッション(EUCAP Sahel Mali)予算を500万ユーロ増額
- 2016年6月6日 第2回EU・キューバ人権対話、ハバナで開催。結社の自由や市民社会・難民保護など協議
- 2016年6月7日 欧州委員会、移民に関する新連携枠組を提示。欧州移民アジェンダの下第三国と協力強化
- 2016年6月7日 欧州委員会、移民の統合への行動計画と高度技能を持つ移民向けのブルーカード改革提案
- 2016年6月7日 欧州委員会、ユーロ収斂報告書発表。チェコらユーロ導入目指す7カ国、導入基準満たさず
- 2016年6月7日 ソマリアEU海軍部隊及び中国海軍、アデン湾で世界食糧計画(WFP)船舶の航行を護衛
- 2016年6月8日 欧州委員会、国際文化関係戦略発表。文化協力、文化間対話、社会・経済利益拡大等が柱
- 2016年6月8日 EU・トルコ、テロ対策対話開催。テロ情報共有や司法警察当局間協力など両者間協力協議
- 2016年6月8日 EU・韓国、「EU Gateway Korea」開始。今後5年間で5つの産業分野の両者間産業協力推進
- 2016年6月9日 ソマリアEU海軍部隊、海上自衛隊護衛艦2艦とアデン湾で洋上訓練を実施したことを発表
- 2016年6月9日 Eurostat、2015年度EUサービス貿易は輸出8112億・輸入6605億ユーロ。黒字額は前年比減
- 2016年6月9日 ドラギECB総裁、ユーロ圏諸国の構造改革の遅れは経済的代償伴うとして改革加速促す講演
- 2016年6月9日 メージャー及びブレア両元英首相、北アイルランドにて党派を超えてEU残留を訴える講演
- 2016年6月9日 英国立経済社会研究所(NIESR)報告、英EU離脱で2020年に440億ポンド財政赤字、福祉打撃
- 2016年6月10日 欧州委員会、昨年12月COP21合意「パリ協定」批准に向けた提案。EU内批准手続開始へ
- 2016年6月10日 第6回EU・中国ハイレベル戦略対話。モゲリーニ上級代表及び楊潔チ国務委員、協力協議
- 2016年6月11-12日 駐日EU代表部ら、欧州留学フェアを京都と東京で開催。36もの高等教育機関らが参加
- 2016年6月12日 モゲリーニ上級代表、米オランダ銃乱射事件を受けて、LBGTIの人々の結束を誦う声明
- 2016年6月13日 モゲリーニ上級代表、包括的核実験禁止条約(CTBT)の未批准国に対し早期批准促す演説
- 2016年6月14日 欧州委員会、テロに繋がる過激化に対処する加盟国へ支援措置。教育や宣伝対策など柱
- 2016年6月14日 トゥスク議長・ユンカー委員長、米オランダ銃乱射事件でオバマ大統領に連帯の書簡
- 2016年6月14日 英最大紙「ザ・サン」、1面トップ掲載社説でEU離脱支持表明。英主要紙で初の立場表明
- 2016年6月15日 欧州委員会、難民に関するEU・トルコ合意の実施状況第2回報告書。進展は脆弱と評価
- 2016年6月15日 独仏外相会談、独ブランデンブルクで開催。共同会見で英EU離脱は団結揺るがすと警鐘
- 2016年6月15日 モゲリーニ上級代表、シリア国民連合・民主的変革諸勢力国民調整委員会の代表と会合
- 2016年6月15日 モゲリーニ上級代表、EEAS新事務総長にシュミット事務次長任命。現職ルロワ氏9月退任

2016年6月15-16日 欧州開発デーズ(EDD)、ブリュッセルで開催。持続可能な成長への2030年計画等協議

### 【編集後記】

今回の巻頭エッセイは、専修大学法学部の伊藤武先生からイタリアの新しい政治の潮流についての力のこもった原稿をいただきました。

先日、ローマ市長選挙の決選投票が行われ、与党候補を抑えて、結党7年目の「五つ星運動」から出ているラッジ候補が67パーセントの票を集めて圧勝しました。37歳の弁護士であり、ローマでは初めての女性市長の誕生です。

与党民主党から出ていた前市長は、多額の公費を家族のために使ったという疑惑を持たれ、昨年秋に辞任しました。これを受け、新市長は、市長名義のクレジットカードの使用をやめることや市内のごみ処理を徹底することなど、非常にシンプルな公約を掲げて当選を果たしました。ローマ市役所という巨大組織をどう改革していくのか、期待と注目が集まっています。

さらに、イタリアでは、大都市の市長が国政に進出することが珍しくないことから、その次のステップを視野に入れた確執が早くも始まっているようです。たとえば、与党出身のレンツィ現首相は2024年にオリンピックをローマに誘致するという構想を打ち出していますが、ラッジ新市長はオリンピックより緊急に解決すべき問題があるとしてこれに反対をしています。

どこかの国や都市の話ともよく似た状況になっているようですが、いずれにせよ、新市長の正念場は選挙に勝った後のこれからであり、今後その統治能力、行政能力が問われていくことになると思われます。

EUからの離脱の是非を問う英国の国民投票が終わりました。この結果とその影響については、これからも様々な形で発信していきたいと思います。

(藤川哲史・EUSI メールマガジン編集担当)

6月23日のEU残留・離脱をめぐる英国国民投票の結果は、英国内やEU域内のみならず世界に大きな衝撃を与えました。その原因や背景などについてはすでに様々な分析が出されていますのでそちらに譲りますが、今後欧州における大きなカレンダーとして、明日28日から29日に控えた欧州理事会、今月末に予定されているEUの新グローバル戦略発表、そして来月8日から9日にかけてポーランドで開かれるNATO首脳会合が控えています。

本来であれば、23日の英国国民投票でEU残留を決定し→28日・29日の欧州理事会でEUの連帯を確認→今月末にEUの新グローバル戦略を発表→7月にNATOサミットを迎える、というイメージを描いておりましたが、英国のEU離脱はこれらにとっても少なからず影響を与えることにならないかと案じています。

もちろん今回はEUに関するメンバーシップですのでNATOサミットに対しては直接的な影響がある訳ではなく、また今国民投票を以って英国はEUから即離脱という訳ではなく、離脱通告から2年以内の期間を経てからの離脱となります。ですが「英国なきEU」という姿を欧州のリーダーたちやEU市民も本格的に思い描いてきた訳ではなく、今後どのようにこれらに向けた移行を現実的に進めてゆき、今後の欧州統合やEUの新たなあり方をイメージできるかという問題は、2年間という期間以上に長い時間を要することになるでしょう。

そしてそれ以上に大きな問題に直面することになるのは、ほかならぬ英国自身であるように思われます。離脱した後の英国の姿を離脱派は少なからず述べてきたものの、彼らの言うように主権を思うように行き、移民問題に効果的に対処し、通商条約を締結することができるかは誰も分かりません。むしろ残留派が述べてきたように、経済センターとしてのロンドンの相対的地位が低下し、より大きな市場枠組から取り残され、英国はむしろ孤立の道を進むことになる

かもしれません。その時に今回のEU離脱という選択が果たして賢明なものであったかどうか問われることになると思います。

(林 大輔・EUSI メールマガジン編集担当)

---

EUSI (EU Studies Institute) in Tokyo

〒186-8601 東京都国立市中 2-1

一橋大学 マーキュリータワー#3504 EUSI 事務局

TEL: 042-580-9117 / E-mail: info@eusi.jp

ご意見、ご感想、配信登録・配信停止、その他メールマガジンについての  
問い合わせにつきましてはこちら

E-mail: info@eusi.jp

---